

腎細胞癌術後 11 年目に脾転移巣を切除した 1 例

石井 龍¹⁾ 二見喜太郎²⁾ 井手 知子¹⁾
宮島 茂郎¹⁾ 平 浩志¹⁾ 原岡 誠司³⁾

¹⁾ 福岡大学筑紫病院泌尿器科

²⁾ 福岡大学筑紫病院外科

³⁾ 福岡大学筑紫病院病理部

要旨：腎細胞癌の術後 11 年目に脾転移巣を切除した 66 歳男性の 1 例を報告する。

症例は 54 歳で胃癌に対して胃部分切除術，55 歳で腎細胞癌に対して左腎摘除術，59 歳で胃癌の局所再発に対して胃全摘除術を受けていた。腹部ダイナミック CT で脾尾部に血流豊富な腫瘍を認め，腎細胞癌の脾転移が示唆された。脾体尾部切除術が行われ，病理診断は転移性の淡明細胞型腎細胞癌であった。脾転移切除術後 66 ヶ月のフォローアップ CT で多数の腹腔内リンパ節転移を認めた。症例は脾切除術から 71 ヶ月後，最初の腎摘除術から 205 ヶ月後に死亡した。

キーワード：腎細胞癌，脾転移，脾転移切除術